

## 枝豆

作付面積66.5ha(前年度比83%)、出荷数量173.9トン、販売額1億160万円と、面積および出荷量は減少傾向でしたが、販売額は前年度を上回る実績となりました。

4月下旬から播種作業が始まり発芽の状況は良好でしたが、6月の低温により生育停滞や莢付きが悪くなるなどの影響が出ました。

極早生から中生品種までは目立った病虫害被害はなく、7月18日から収穫を開始しました。収量は低温の影響から減少しましたが、製品率が60%を超え、8月末まで安定した出荷量となりました。中晩生品種からは、降雨や日照不足の影響を受けて湿害や収穫遅れが見られた圃場もあり、製品率の低下などで出荷量は減少しました。

安定した単価を確保するため、前年度より契約販売を増やしながら販売促進に取り組み、A品の販売実績は前年を上回り、数量と金額ともに112%となりました。次年度も県内外へ向けた安定的な品質と出荷量を目指して取り組んでまいります。



6月20日(月) 枝豆現地研修会

## 菊



8月5日(金) 船越園芸集出荷施設

6月下旬の高温の影響から全国で開花遅延が発生し、市場では品不足のために盆向けの輪菊、小菊の単価が高く推移しました。しかし、当JA管内でも開花の遅延が発生したため、例年と比べて出荷ピークが1週間ほど需要期後半に遅れ、盆向け作型の小菊の約2割が需要期明けまで残る結果となりました。盆の需要期の明けには全国で遅れて開花した花き類が市場に溢れ、単価が低迷したため出荷調整で対応を行いました。

以降は比較的安定した販売状況でありましたが、一番の需要期である盆向けの出荷本数が減少し、12月末現在の出荷本数は前年度比90%の343万本、販売金額は93%の1億7,391万円となりました。

## 梨

開花期から落花期は平年より4日程度早くなりましたが、降霜による被害は少なく、結実が良好でした。果実肥大期の初期は小玉の状況でしたが、8月の降水量増加によって「豊水」以降の品種の肥大が回復しました。また、9月に台風が2度接近し、大玉品種で落果や傷果の発生が見受けられました。

販売面では予約相対での値決め販売などで有利販売を行いましたが、盆前の高単価の影響によって、盆明け以降は出荷物の供給に対して消費・需要の動きが鈍く、霜害による収量減少から高単価だった前年を下回りました。その結果、平均単価は1ケース当たり3,480円(前年度比82%)、販売金額は2億1,428万円(前年度比156%)となりました。次年度に向けて、品質・出荷量の安定を目指して霜害対策の普及と品質向上対策に努めます。



9月7日(水) 中石梨選果場

